

【佐竹保全・教育推進課長】

全員揃いましたので定刻より少し早いですが、会議の方を始めさせていただきますと思います。

ただいまから令和8年度第1回市民動物園会議を開催させていただきます。私は本日の進行を務めます、保全・教育推進課長の佐竹と申します。3月までは保全・教育推進課の保全・教育担当係長としておりましたけれども、この4月に現職の方に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

本日もですが、滝口委員と有坂委員が所用のため欠席とのご連絡をいただいております。

それでは会議開催にあたりまして初めに当園園長の白水よりご挨拶申し上げます。

【白水園長】

皆様こんにちは、園長の白水でございます。

本日はご多忙の折、第52回市民動物園会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

また日頃より、円山動物園の運営に対し、ご理解とお力添えをいただいておりますこと、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

さて、当園はこの度、北米を中心とした動物園水族館協会、AZAへの加盟を目指して取組を進めることといたしました。世界水準の飼育技術環境であったり、教育プログラムを追求することは円山動物園が今後も市民の皆様にも愛され、国際的にも信頼される施設であり続けるために不可欠な挑戦であると考えております。

また、今年度、レッサーパンダの獣舎改修を目指し4月23日から円山動物園では初となるクラウドファンディングに挑戦中でございます。単なる資金調達にはとどまらずに、当園の活動に対する共感の輪をですね、市民の皆様を初め広げていく取組として、何とか成功させたいなと思って試行錯誤しながらやっております。

本日はこの他、円山動物園ビジョン2050の第2次実施計画の今年度の取組であったり、令和8年度予算概要など5件の議題を予定しております。限られたお時間ではございますが、皆様どうか、幅広い観点から忌憚のないご意見をお願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【佐竹保全・教育推進課長】

白水園長ありがとうございました。それでは議事の方に入らせていただきます。これ以降の進行につきましては吉中議長の方をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【吉中議長】

皆さんこんにちは。どうぞよろしくお願いいたします。暑いところ大変だったと思いますが、頑張りましょう。

今日の議事は6つ用意されているということです。順次進めていきたいと思います。司会進行ということで皆さんの忌憚のないご意見を賜れば大変ありがたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

では一つ目があいさつ・自己紹介ということですけれど、これは動物園さん側の方の人事異動等に伴って新たに来られた方のご紹介をいただければと思いますのでお願いします。

【北館経営管理課長】

4月より経営管理課長に着任いたしました北館と申します、どうぞよろしくお願いいたします。

【佐竹保全・教育推進課長】

改めまして、保全・教育推進課長に着任しました佐竹です、よろしくお願いいたします。

【後藤経営係長】

同じく4月1日付けで経営係長に着任いたしました後藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

【石田推進係長】

保全・教育推進課推進係長の石田です。事務局をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

【五島飼育展示二担当係長】

飼育展示二担当係の係長をしております五島です。よろしくお願いいたします。

【富士本保全・教育担当係長】

この4月より保全・教育担当係長として参りました富士本と申します。よろしくお願いいたします。

【増田飼育展示一担当係長】

4月に飼育展示一担当係長に着任いたしました増田と申します。よろしくお願いいたします。

【高江洲飼育展示三担当係長】

同じくこの4月から飼育展示三担当係長に着任しました高江洲と申します。よろしくお願いいたします。

【伊藤動物診療担当係長】

動物診療担当係長の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

【菅野施設計画担当係長】

4月より施設計画担当係長に着任しました菅野と申します。よろしくお願いいたします。

【佐竹保全・教育推進課長】

円山動物園の方からは以上となります。

【吉中議長】

どうもありがとうございます、どうぞよろしくお願いいたします。これはパワーアップしたと思っていいんですかね。

【白水園長】

今日来ていない係長もいますが2名増えています。

【吉中議長】

人も増えているんですか。素晴らしい。

【白水園長】

動物専門員の方からも主査が1人増えております。

【吉中議長】

心強いですね、よろしくお願いします。

それでは議題の方に行きましょうか。札幌市円山動物園ビジョン2050第2次実施計画の令和8年度取組についてということで事務局からまずご説明をお願いします。

【石田推進係長】

保全・教育推進課推進係長の石田です。私から第2次実施計画の令和8年度取組について、資料2をご覧くださいながらご説明させていただきます。こちら、これまでの資料を今年度の取組のにしたものでございますけれども、上から順番に説明させていただきます。

まず一つ目の動物福祉分野の動物福祉評価についてです。令和10年度までに改善が必要、改善の余地があると評価された項目の割合を全項目の5%以下にするという目標でございます。毎年、動物福祉評価を行い、改善が必要とされたものを改善していくという項目になりますので、単年度ごとの数値目標は設けておりません。この動物福祉評価につきましましては、令和4年度から実施しておりますけれども、令和5年度は前年度に飼育担当係長が評価したところを令和5年度評価については、各飼育担当者が1次評価を行ったということで評価のズレというものが少し生じてしまいまして、その結果として令和4年度に比べ令和5年度は指摘が増えてしまっているという状況が発生しました。そういった反省を踏まえまして、令和6年度は引き続き飼育担当者が1次評価を行いましたけれども、あらかじめ評価基準を定めた上で実施しておりまして、改善が必要、改善の余地があると評価された項目の割合が10.1%ということで大幅に減少して、改善したということでございます。今後につきましても引き続き指摘項目を減らせるように取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして2点目、保全の分野です。放鳥モニタリングするオオワシの累計数を令和10年度までに5羽にするという数値目標についてです。こちらの目標につきましましては、昨年度から、まずは放鳥を目指すにあたり必要な技術的知見の集積に取り組むとともに、放鳥の地域の方々などの関係者との合意形成に取り組んできたところでございます。今年度も引き続き傷病保護個体の中型猛禽類のリハビリを行いまして、発信器をつけて夏前までに試験放鳥することを目指し取り組んでいきたいと考えております。

続きまして保全の分野、認定動物園等への研修会実施件数を年2回という目標についてでございます。こちらは札幌市と市内の動物園水族館が連携して、生物多様性保全の活動を底上げしていこうという札幌の動物園ステップアップ制度における取組になります。研修会につきましては、認定動物園に対して行うこととされておりますけれども、現時点で認定動物園となった施設がないため、研修会の実施は未定という状況でございます。一方で、令和6年度に引き続き、昨年度も準認定施設であります札幌市豊平川サケ科学館、AOAO SAPPORO、そして本市の生物多様性保全の担当課との間で保全活動に関する情報共有や連携を目的とした保全活動連携協議会（準備会）を開催いたしまして、保全活動に係る情報交換を行ったところです。今年度におきましてもこうした準備会を通じて保全活動に係る連携や情報共有をしっかりと図ってまいりたいと考えております。また、準認定施設の申請への意向を示している施設に対して、情報提供や登録申請に必要な助言を継続して行っておりまして、こうした働きかけを継続し、制度の促進を図ってまいりたいと考えております。

次に、教育分野、園内イベントへの参加を通じて、生き物と人との関わり大切さを理解した人の割合を100%にするという目標についてです。こちらの目標につきましては昨年度と同様の取組としています。子どもの1日飼育係や円山ZOOナイトツアーといったイベントを通じて、生き物と人との関わり大切さを理解を進めてもらいたいと考えております。

続きましてその下、調査研究の分野でございます。ホームページ掲載の調査研究報告書等の閲覧回数を毎年増加させるという目標ですが、研究報告書を掲載するホームページを作成し、適宜更新することで閲覧回数の増加を目指すこととしております。一昨年度は糖尿病のクロザル症例に関する論文、昨年度はホッキョクグマの胆管がんに関する論文を掲載いたしまして、閲覧回数は順調に増えているところでございます。今年度も引き続き、論文や報告書などの更新を適宜行いまして、閲覧回数の増加に取り組んでいきたいと考えております。

続きましてリ・クリエーションの分野2つでございます。

まず一点目、円山動物園を他の人にも勧めたいと答えた人の割合を、来園者アンケート75%以上にするという目標についてですが、来園者に円山動物園の魅力を感じてもらい、他の人にも円山動物園を勧めてもらおうということで、昨年度同様、ガイドや各種教育プログラムを通じて、来園者の高い満足度を維持してまいりたいと考えております。一昨年度から75%という数値目標を大きく上回り、90%後半の来園者アンケートによる満足度のご回答いただいておりますが、引き続きこうした高水準を維持できるように取り組んでまいりたいと考えております。

続きましてリ・クリエーションの分野2点目、円山動物園にまた来たいと回答した人の割合を79%にするという目標についてです。こちらにつきましても一昨年度から数値目標を大きく上回っておりまして、昨年度につきましても来園者アンケートにおいて99.2%の方にまた来たいと回答していただいているものですが、今年度も来園者の観覧環境の充実を図って、また来たいと思ってもらえるようにしたいということで、定期的な園内掲示の見直し、さらに今年度におきましては休憩スペース、キッズスペー

スの増設といったことに取り組み、観覧環境の充実に取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして基盤整備の分野でございます。

持続可能な運営手法の導入検討という目標についてですが、こちらの目標につきましては、数の目標ではなく持続可能な運営手法の導入を検討するというものになります。令和6年度に実施した経営基盤安定化調査において、調査委託業者から提案のありました寄附やクラウドファンディングといった多様な財源の確保、さらにはデジタルマップ、オンラインチケットといったものを活用した来園者の利便性向上や業務の効率化といったものに取り組み、持続可能な運営に向けて取り組みたいと考えております。

続きまして施設整備の分野3項目です。

まず一つ目、園内施設の修繕必要件数を令和10年度までに、令和4年度169ヶ所あったものを73ヶ所まで減らすという目標についてでございます。園内施設はどこも老朽化が進んでおりまして、毎年毎年新たに修繕が必要となる場所が発生しているところです。こちらの資料にもありますとおり、昨年度におきましては、新規発生件数234件という状況でしたが、各案件の優先順位ですとか修繕方法を決め、効率的に修繕を行っていくということで、発生件数を上回る修繕ができていることから、修繕の必要な残りの件数が着実に減っているところでございます。

次に施設整備の項目2点目、施設保全計画の策定についてでございます。こちらにつきましては昨年度実施しました外壁やポンプなどの施設設備の劣化調査の結果を踏まえまして、今年度は職員による長期修繕計画の作成を予定しているところでございます。

最後は施設整備の分野3点目、北海道ゾーン基本方針策定に向けた調査研究の実施という目標についてです。昨年度、大学との調査結果研究を行っておりますので、数値目標としては既に達成済みということになりますけれども、今年度はその調査研究の結果を踏まえまして、北海道ゾーンの整備の方向性を園内でまとめ、基本方針をしっかりと作成してまいりたいと考えております。

第2次実施計画の令和8年度の実施のご説明については以上でございます。

【吉中議長】

ご説明どうもありがとうございます。今年度の重点的な取組案についてもう始まっているものもあると思いますが、ご説明いただきました。何かご質問あるいはご意見ありましたらどこからでも結構です。

【細矢委員】

保全のところで、放鳥モニタリングするワシの累計数5羽、まず令和10年ですけども、という目標を掲げられておりますけども、今年の実施としてはオオワシの放鳥に伴

う技術的懸念の解消のため科学的知見の集積に取り組むとともに、引き続きオオワシの関係者との合意形成を図ると、実際令和7年度はそういう放鳥モニタリングというのは0羽でしたというご報告だったと思うんですけどももう少し具体的に教えていただきたいです。

まず、今までこの放鳥に関しては実際に取り組んだことがあるのかなのかということ、それから、技術的懸念がまだ解消されてないというのは具体的にどういうことなのかということ、オオワシの関係者との合意形成というのはどういう意味なのかというその3点をお聞かせください。

【五島飼育展示二担当】

飼育展示二担当係長をしております五島です。オオワシの放鳥に関してですが、まず類似の案件も含めた実績ですが、過去にはハヤブサですとか、ちょっと種を忘れてしまったんですけれどもタカ類の傷病で入った個体を治療して、リハビリを施して放鳥したという実績は過去にも、今回オオワシプログラムという形で実施しようとしているものなんですけれども、こちらは元々野生にいたものを、治療して放すということではなくてですね、最終的なゴールとしては、動物園で繁殖させた個体を野生地に返して、減ってきたオオワシの補強をするという考えになります。そういったオオワシを放すにあたって、放したオオワシが実際に野外で生きていけるのかどうかということと、元々そこにいる鳥の生息状況を乱さないかということが非常に重要になってまいります。以前も傷病の鳥を放してはいたんですけれども、その部分までは追い切れなかったもので、今回ノスリを使って、追跡をしまして実際どういう動きをするのかですとか実際にデータを取っていききたいという科学的にデータとして集積していききたいという考えになります。オオワシ関係者との合意形成という部分ですが、先ほども少し触れましたが、元々野生にいるオオワシとの関係性ですとかあとは類似鳥としてオジロワシというのがいますので、そういった強いオジロワシの遺伝的なかく乱ですとか、あるいは動物園から何か持ち出してしまうんじゃないか、そういう病的なリスクもありますのでそういったところを完全にクリアにするための手順がやはり園内で整備してからでないと放鳥まではたどり着けないので、そういった部分の手順ですとか、ノウハウの蓄積というところで取組を続けているところでございます。

【細矢委員】

ありがとうございます。動物園で繁殖させた個体を自然界に放すという取組をやっていこうということで今のノスリですか、具体的にどの辺に放そうかなというイメージはあるんですか。

【五島飼育展示二担当係長】

道東の浜中町で放す計画をしております。元々そちらの方で車との衝突事故で保護された個体になりますので、元々いたところに放してデータがちゃんと取れるかということも考えております。

【佐々木委員】

昨年度も申し上げたかもしれないんですけども、来園者アンケートで非常に高い満足度を維持されているというのは素晴らしいなとまず思いまして、入館料無料みたいなところではこういうデータが出ると思うのですが、きちんと皆さん入園料を払っている上で満足していただいているということが、本当にこの数字は素晴らしいなと思いました。そして各種教育プログラムというのはこれは無料でのプログラムということなので、私もどんなものがあるのかも改めて勉強しながら非常に素晴らしいと思いました。今後もそういうプログラム等もあると思うんですけども我々も放送局としてもこういった満足の高いものを広めていくのも仕事の一つですので、事前にリリースなんかもいただきながらやっていきたいなと思いました。あと来園者アンケートの母数といえますか、どういう形で取られて何回ぐらいとか何人ぐらいというのを教えていただけるものでしたらお願いします。

【石田推進係長】

毎月100人の来園者の方にとっておりますので年間では1,200人になります。

【相原委員】

ありがとうございます。ご説明いただきまして、全体として園としてして取り組める中でしっかり着実な成果を上げられてるということが分かり、素晴らしいなと思いました。2つほどこの資料4の読み方といいますか、背景情報をいただきたいと思いました。一つ目は、一番右に令和8年度関係予算と書いていただいている、この重点取組分野に対してどれだけどういう形でお金を工面して、取り組まれているかすごくわかりやすいです。その中できつといろいろ苦慮された結果なんだろうと思ったんですけど、横棒ですね、きつと背後にどんなことがあったのかなという、例えばですけど、複数の費用項目にまたがるとか、そういうことがあるのかなと思ったんですけどそのあたりご説明いただければ、理解が進みます。

【石田推進係長】

棒線の部分ですけども、例えば動物福祉評価では、何か必要な機材があるとか物を買うといったことではなくて、職員が頭と手と時間を使って評価をしていくということで、かかっている費用をあえて言うのであれば人件費ということになります。この後、当

園の関係予算についてご説明させていただきますけれども、正職員の人件費予算は当園の予算ではなく、他部署の予算から出ているものなので、今回はこの棒線にさせていただいたものになります。

【相原委員】

ありがとうございました。あともう一点、これは細かい項目で施設整備の中の1点目の園内施設の修繕必要件数というところの話です。かなり新規発生案件というのが多いように見えてしまうんですけど、この中で多いとすれば多い中で費用の工面とかすごく大変だと思います。この辺りの234か所の捉え方というのを、予想より多かったものなのか、毎年恒常的にこのぐらいあり得るというご理解のか、その辺りを教えていただければありがたいです。

【菅野施設担当係長】

ご質問ありがとうございます。毎年おおむね200件近くは修繕項目が新規で出ております。内訳としましては、特に設備系なんですけれども配管の水漏れですとか、照明の球切れですとかそういった小ぶりの案件ですとか、あとはポンプの目詰まりですとか、そういったところから件数としては多く発生しております。また、外壁のタイルの剥がれですとかそういった建築的な部分でも一部発生しております。

【相原委員】

毎年これだけある中で、最終的に73か所というの出されているというところ大変さ、よくわかりました。ありがとうございます。

【吉中議長】

その他いかがでしょうか。ご報告いただいたこの表ですけれども、第2次実施計画で決められていると定められた重点取組分野ごとに既に、なおかつ数値目標があるものを並べていただいているんですけど、これに限らず、今年度円山動物園でこんなことをぜひ取り組んでほしいとか、重点的に考えてほしいみたいな、そういうアイディアもありましたらいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【細矢委員】

今日少し早く来たものですから、ゾウ舎を見させてもらったんですけども、最初の頃来たときゾウ舎のプールはとても透明で非常に綺麗な状態で見えていたんですが、今日行ったら、まるっきり何も見えない状態になっているというのは、清掃だけの問題では

ないような気がするんですけども、どういう状況なのか教えていただけないかなと思います。

【白水園長】

あそこはろ過しているんですけど、ろ過装置の方が今少し調子が悪いというのと、一つには、タオがすごく成長しまして、非常に水遊びや泥遊びをよくやりますので、少し濁り気味です。もうちょっと綺麗になります。

【細矢委員】

できればその旨を表示していただく方が、今はろ過装置が壊れているのでこういう状態になっていますというのは、やっぱり来園者も見ていて非常にがっかりするんですよ。お願いいたします。

【吉中議長】

大変貴重な意見ありがとうございます。私も来る前にゾウ舎行ってみて、あれっと思ったんですけど、特に親の方がその水を飲んでいて、あまり快適じゃない見た目になってたので、何か考えていただけるといいかなと思いました。

その他いかがでしょうか、何かないですか。それでは次にご説明いただくAZA加盟について、重要な取組ということで進められると思います。それもお聞きした上でまたご意見いただければと思います。どうぞよろしくお願いします。

【五島飼育展示二担当係長】

それでは資料3のAZA加盟に向けたPTMへの参加についてご説明をさせていただきます。

まず、動物園を取り巻く状況ですけども、国際的な連携ですとか、科学的な手法を取り入れた福祉評価、福祉の実践というものが持続的な運営をする上で非常に重要になってまいりました。そういった背景を受けて、AZAに加盟しようということを目指しているところでございます。欧米を中心に動物福祉が実践できていないですとか善し悪しが判断できないというような施設に対して、動物の移動を制限するという考えが広まっております。日本の動物園は、国際的な保全活動への参加が過少であったというようなこともありまして動物を海外から入手するというのがネックになることも過去にはございました。当園でも、カナダからホッキョクグマを移動する際にですね、やはりこの部分がネックになって、難航したという経緯がございます。AZAの加盟なんですけれども、国際的な保全の枠組みへ参加するという位置づけで、取り組んでまいるところで

ございます。AZAですけれども似たような組織として日本にJAZAという組織がございます。JAZAとAZAの大きな違いとしましては認定基準があるということです。AZAに関しては動物福祉を中心としたプロセスを始めとした多岐に渡る基準を持っており、こういったものに適合しなければ、認証が取れず加盟ができないというような仕組みに成っております。AZAに加盟する上でも申請書を書いてすぐに入れるものではなく、いろいろな審査を受けながら入るというところになっておりまして、そういった準備が数年必要なものになっております。それで後の方でもですね加盟するための準備プログラムとして、Pathway Toward Membership (PTM) というような制度を設けております。このPTMですけれども、経験豊富なコーチを1人当てまして、基準へ適合するための支援を受けながらAZAへの加盟を目指していくというような仕組みになっております。資料3の中ほどのAZAとPTMの説明補足追加でさせていただきますけれども、AZAというのは繰り返しになりますけれども北米を発祥とした動物園水族館の協会でございます。特に動物福祉を重視した基準を定めておりまして動物福祉のゴールドスタンダードとも呼ばれております。世界で北米発祥なんですけれども、近年ではアジアですとか、南米中東でも加盟園館が増えまして現在13カ国254の施設が加盟しているところでございます。現時点で日本に加盟園館はありません。PTMですけれども、当園のコーチとしてカナダトロント動物園のgrantファニスさんという方がコーチを務めていらっしゃいます。令和8年3月にPTMに参加しまして、実際にgrantさんにも当園にお越しいたいで現場を見ながらいろいろな助言や指導をいただいているところです。補足としまして令和8年3月に市民公開フォーラムというものを実施しまして、その中でトロント動物園とのパートナーシップ締結についてお披露目をさせていただきました。この将来の保全に向けた戦略的パートナーシップというのは、生物多様性の保全ですとか気候変動に対してお互いに協力協働していきましようということで覚書を締結してございます。

裏面の方で説明させていただきます。2番のAZAへの加盟により期待されることですが、3つ記載してございます。まず一つ目が希少種の移動や交換が容易になるところですね。AZAに加盟すると希少種保全計画の枠組みに参加することになります。SSPというような結果計画がありましてそちらに参加することになりますので、AZA加盟園からの動物導入のチャンスが大幅に増加します。

また、AZA認証ということで国際的な信用を得られますので、海外からの動物の譲渡ですとか、他のハードルといったものが大きく下がることが考えられます。そこに国際的な保全への枠組みへの参画ということですね、AZAは、政府プログラムというような保全のプログラムを用意してまして生息域内域外の保全について参加をするような形になりますので、動物園が積極的に現地の保全ですとか、生態系の保全に関わるということができるようになるかと思えます。

(3)の飼育技術や保全活動、環境教育の強化ですけれども、先ほども申し上げましたとおりAZAに入るにあたっては多種多様な基準がありますので、そちらへの基準を適合させるための園内のプロトコルの見直し、マニュアルの見直し、体制の整備といった部分を行うことで、科学的に基づいた客観的な体制が整備されるということで動物園の機能ですね、環境教育ですとか、保全活動とか飼育技術そういった部分の機能が強化されるというふうに考えております。

3番の進捗状況ですけれども、昨年度の実施状況を記載してございます。令和7年11月から12月にAZA加盟園へ職員を派遣しまして、AZA加盟が現実的なのかどうか、入るとすればどれくらい大変なのかというところを調査してまいりました。従来はAZAに加盟するにあたっては、非常にハードの部分が獣舎の整備が厳しいんじゃないかというところで懸念していた部分もあったんですけれども、実際に視察してみるとそうではなくて、福祉の部分ですね、計画を立てて、動物のケアをしてその記録を取ってちゃんと評価しているか、そういう循環の仕組みを持っているかどうかということは非常に大事だということがわかりました。令和8年3月に先ほども触れましたが、PTMに参加しましてコーチであるグラントさんをトロントから招聘しまして園内の視察や職員向けの研修を実施しております。またこのタイミングでトロント動物園と将来の保全に向けた戦略的パートナーシップを締結しております。

主な取組事項ですけれども、要綱マニュアルですとか、各種手順ですとかプロトコルの整備が今後必要になってまいります。また掲示物の更新ですとか、獣舎の破損箇所、危険箇所の修繕といった部分もAZAの審査項目に関わってまいりますのでそういった部分も定期的に見直してチェックしていく必要があるかなと思います。また、一部できている部分もあるんですけれども将来的な計画でコレクションプランですとか、保全活動の計画ですとか、そういった部分も整理しているところではあるんですけれども、こちらがAZAの期待するところに合致するかどうかというところを、今後調べて合わせていくというような形を想定しております。

4番の今後のスケジュールですけれども、AZAの認証ですけれども最終的にはインスペクションという現地の査察がでございます。現地の査察インスペクション後にですねAZAの理事会で承認を受けて、ようやくAZAに加盟という形になります。その間様々なプロトコルの整備があるんですけれども、時期としては大体令和10年から11年度にインスペクションを受けて加盟をしたいと考えております。令和8年度令和9年度と表がありますけれども令和8年、令和9年に基準の適合化に向けてプラットフォームですとか、ドキュメントの整備をしまして、それが園内に主に浸透してそのプロトコルとおりが動けるように定着しまして、お諮りまして令和10年から11年頃に本申請をいたしまして、認証に向けて動いてまいりたいと考えております。AZAに向けたPTMへの参加について説明は以上となります。

【吉中議長】

どうもありがとうございます。何かご質問ご意見ご助言ありましたらお願いします。

【河合委員】

質問なんですけれども、AZAの本申請・認証が行われたとして、海外から例えば受け入れようとしている生き物が今想定されているかどうかというところを聞かせていただきたいです。

【五島飼育展示二担当係長】

現状で話として挙がっているのはホッキョクグマですね。例えばユキヒョウですとか、他の種に関しても、国内で導入がどうにもならなくなっている種がいくつかありますのでそういった動物種も候補になるかなと考えております。

【細矢委員】

今、希少種の移動交換のところで、ホッキョクグマの取得を目指されているという。前々回ぐらいに、野生に近いホッキョクグマを導入したいという話があったんですけども、その話はもうなくなったと思っていいんですか。

【五島飼育展示二担当係長】

なくなったといいますか、元々希望していたその野生に近い種、個体というのが孤児だったりするんですよね。マニトバ州では毎年ホッキョクグマの孤児が保護されるんですけども、カナダ国内で飼育場所も限りがありますのでそういったところで余剰になっているという実態もございます。飼育下繁殖の個体よりもその孤児の方が国内に持ってきたときに、遺伝的な多様性を考えると、継続的な繁殖ができますので、そういったところで希望していたというところのお話でございます。

【細矢委員】

それでこのAZAとの関係がよくわからないんですけども、まずは加盟することによって、AZAに加盟してる動物園なり、水族館内で飼育しているそういうホッキョクグマを導入するということかなと私も聞いたんですけどもそうではないですか。

【白水園長】

AZAに加盟することで、国際的な信用が増します。カナダとしても、元々カナダは外国にホッキョクグマを出すということを考えてないところなんですけれども、AZAを取ってるところであればというような考えもあるということなので、まずはそういう国際的な信用をしっかりとやって、かつうちはマニトバ基準の施設も持っているの、その辺りのところでうまく導入ができないかなということで調整をするという形になります。

【石橋飼育展示・診療担当課長】

少し追加でお話をさせていただきますけれども、例えばカナダで飼われているホッキョクグマを飼っている動物園がどういうところかというところ、AZAに加盟をしている園館がかなり多い、大半だというふうに思っていた方がいいかなと思います。そのAZA加盟園館においては、AZAに加盟していない園館に、そもそも動物これはホッキョクグマに限らずですけれども、動物を送るというときには、その施設がちゃんと自分たちと同じように良い動物の管理がされているというところを、出す側の動物園が保証しなければいけないというそういったところがあるんですね。なので、言ってみれば彼らにとってAZAに加盟をしていない動物園に動物を出すということはある種のリスクでして、その部分で、今回我々がそのAZAに加盟をするというふうになるとハードルがガクンと下がるというところになります。そうすれば我々が当初思い描いていた、よりその野生の源流に近いクマたちを国内に招き入れることができる、そういったチャンスというのも大きく広がっていくのかなと考えているところです。

【能代委員】

AZAに加盟している園館は日本では他にはどこがあるのですか。

【白水園長】

ありません、今初めての挑戦を円山動物園がやっています。

【吉中議長】

私も大変良い取組だなと思って聞いておりました。そもそもビジョン2050で目指していることと、このAZAが目指していることとほぼ同じ方向を向いているのかなと思っていて、これを取るっていうのは今のご説明では希少種の移動が少し容易になるというか、可能になる、できることに繋がっていくというようなのがメインというふうなご説明でしたけれど、多分この資料3のAZAへの加盟を意味するものを書いてあるとおり、まさにビジョンで述べたようなことを非常に高いレベルで達成しないと、認証されないというふうに理解したんですけれど、そういうことで総合的にこの円山動物園のステータスが上がって、さらにより良くなっていくというので、ぜひ頑張ってもらいたいなと思いました。それでこのAZA認証に向けての基準があるということだったのでちょっと見てみたんですけれど、その中でこの意味するもので書いてあるとおり、保全活動への貢献というのが結構重要視されていて、基準の一つにコンサベーション保全というのは割と細かく提示されているなと思って見ていたんです。その一方で今の第二次計画あるいは今年度の重点的な取組のご説明の中で、保全のフォローの取組というのはあまり見えてなくて、その辺どうこれから取り組んでいかれるのかというあたりを教えていただければありがたいなと思いました。

【石橋飼育展示・診療担当課長】

保全というのは直接的にその動物の生息地を守るですとか、その動物たちを守るという活動以外にも、例えば教育的な取組を行うですとかその生息状況の調査をしますとかですね、そこに繋がるようないろいろな取組をある程度包含するようなものだということと我々も理解をしております。例えば、当園でやっているようなコウモリの調査であったりだとかもその一つになろうかと思えますし、ニホンザリガニの飼育繁殖技術を確立する、そしてそれを動物園の中で野性復元をしていくとかですね、そういった知見の蓄積というものも保全の取組ということと言えるのかなと思っております。それぞれの取組自体がすごく専門的に我々もやれているわけではないところがあるので、まだまだ足りていないところもあるんですけども、ただそういった取組に関しては、先だってAZAのコーチが来られたときにも少しご紹介しまして、大変良い取組であるというコメントをいただいておりますので、その取組というのを拡大をさせていく、しっかりやっていくということが大事だと考えております。

【吉中議長】

どうもありがとうございます、ぜひよろしくお願いします。先ほどオオワシの放鳥のお話もありましたけど、傷病個体あるいは飼育下個体を放鳥していく、その放鳥そのものももちろん大事だと思いますけど、放鳥先の環境保護、生息地の保護に円山動物園がどうコミットしていくのかということが、きっと問われてくるんだろうと思いますので、大変期待したいと思っております、よろしくお願いします。

【細矢委員】

すみません、何回も失礼します。動物福祉のゴールドスタンダードということで王道だと謳ってらっしゃるんですけども、ひとつ気になるのは、今まず日本国内には加盟がないです。それからアジア南米中東でも会員が増えているのはいいんですけど、結果的にまだ世界で13か国しか加盟されてない。王道と言いながら、まだそれほど取り組まれてない原因は何だと思われますか。

【小菅参与】

ご質問ですけど、非常にレベルが高いです。だから、実際問題、例えばいろんな国の人たちがちゃんとやっていますよと言っても、認証されるかどうかというのはそんな向こうですからね。しかもその基準というのは年々上がっていくわけです。だからこのAZAはいったん承認されたとしても、5年後に再評価しますからね。実際にそこで落ちてしまって慌てて数年してまた上がるということも現実には起こっているの、そういう意味では、彼らは常に向上しますから、現状維持ということはありませんから、そのところにしっかりとやっぱり先ほど園長おっしゃったように、円山動物園と方向が同じ

でもやっぱりそれにしっかりとついていけるぐらいの体力がなければ、なかなか認証されたところであまり評価されないということになってしまいます。日本国内でもWAZAの方は世界動物園水族館協会の方は手を挙げる人が結構いるんです。だけど、AZAに手を上げるというのはなかなかハードルが高くて、今回園長初め皆さんの決断というのは非常に高い志のもとにあるんじゃないかなと僕は思っています。これは何回か指導を受けていくんですけれども、それについては、やっぱり国際基準に則るということは、動物園法のない日本では、一つの大きな基礎になりますからね。ここのところは非常に大きなことじゃないかなと思います。日本はこれからもおそらく動物園法についてはまだまだ政府は腰上がらないんじゃないかと私は勝手に思ってるんですけれども、そんな中で円山動物園はしっかりと基礎固めをして、この中に入ってかなり土台が分厚くなるなという感じがするんですよね。だから他の園館もやりたくても手が出せないというのが現状ですかね。ただ実際、韓国ではエバーランドとか2か所で既に認証を受けているんですよね。あとはアジアで水族館あと二つあるかな、やっぱりそういう意味で高いレベルのところに加盟して、それが当たり前のような活動をしていこうという意味がなければ、加盟しても意味がないので、そういう意味で、今、細矢さんがおっしゃったように、なかなか国も少ないというのは、希望したとしてもそう簡単に入れる入れないが、私達から見ると台湾の動物園なんてすごく素晴らしいことをやっている動物園だけどまだメンバーにはなってないということなので、簡単になれると僕は思っていない。指導を受けたところでこれからまだ厳しい指摘がされるんじゃないかなとっていて、それに応えるような理論構成をしながらやっていければ、ものすごく札幌にとっては良いことになるんじゃないかなと思うんですよ。そういう意味で、少ないんです。よろしいでしょうか。

【吉中議長】

ありがとうございます。よろしいでしょうか。では次、ガバメントクラウドファンディングの実施についてということです。ご説明をお願いします。

【石田推進係長】

ガバメントクラウドファンディングの実施について、資料4をご覧くださいませでしょうか。冒頭の園長からのご挨拶でも紹介させていただきましたが、この4月23日から円山動物園では初めてとなりますクラウドファンディングに挑戦中でございます。このガバメントクラウドファンディングというのは、ふるさと納税型のクラウドファンディングなのでガバメントクラウドファンディングとなっています。

ご覧いただいている方も多くいらっしゃるのかなと思いますけれども、まず2番目のプロジェクトの概要ですけれども、4月23日から7月21日までの90日間ということで実施しておりましたが、まだ進捗がそこまでゴールにまだ見えていないということでこの度30日間募集期間延長させていただき8月20日まで延長させていただくこととさせていただきます。目標金額につきましては1,500万ということで、その下の寄附金の使途につき

ましてはそちらの方にございますけれども、屋外放飼場と屋内展示場を直接連結するトンネルを整備するための費用、そして屋内展示スペースの拡張ということで、レッサーパンダ獣舎の中に入っていただくと右側に黒板のスペースがあるんですけども、そちらの辺りを窓に向かって斜めに広げる形で屋内展示場を広く確保しまして、かつこの右下の写真にありますけれども、この窓口は窓ガラスの一部をくり抜いてですね、この屋内展示場から屋外放飼場に自由に出入りできるようにするという工事、この二つの工事のための1,500万円という目標でございます。

戻っていただきましてプロジェクトの背景でございますけれども、こちらのレッサーパンダ獣舎は平成24年に竣工しておりまして、比較的新しく動物福祉についても、ある程度きちんと配慮がされた獣舎ではあるんですけども、屋内展示場と屋外展示場が完全に分かれていて、動物が自分の意思で中と外の居場所を選択することができない構造になっていまして、現在は屋外に出すときは飼育員があるドアを開けて動物を外に出して、中に入れるときも飼育員がドアを開けてという状況でございます。一方で特に昨年そうでしたけれども、夏の暑さが相当厳しくなっておりまして、高山地帯に生息するレッサーパンダは暑さが苦手なので、夏季においてはですね、冷房設備を備えている屋内展示スペース2区画で過ごすことが非常に多くなっておりまして、動物自体の生活パターンも単調になりますし、また現在当園4頭のレッサーパンダ飼育しておりますけれども、屋内展示スペース2区画しかございませんので皆様にご覧いただけるのが2頭のみという状況でございました。

そういった課題背景を踏まえまして、今回先ほどご説明いたしました屋内と屋外を自由に出入りするための連絡トンネルで、かつ屋内展示スペースを広く拡張してそこからも外に出られるようにするとそういったことで、夏季においても、寝室にいる動物が自分の意思で屋外展示場に出られるようになりますので、動物をご覧いただける機会も増やして、また動物が自分の意思で今は外の空気とか日を浴びたいといったときに選択できるようになるという動物福祉の向上という部分においても獣舎改修を行いたいと考えております。

裏面にいきまして現在の進捗状況でございます。この資料を作ったときの6月5日と少し古い状況ですが、本日時点におきましては、現在寄附金額は534万円、達成率は35.6%ともしかしたらちょっと会議中に増えたかもしれませんが、という状況でございます。支援者数については391人という状況です。また、これはクラウドファンディングの募集サイトを通じて寄附をいただいた方々、募集サイト上の数字なんですけれども、この募集サイトを通じない企業や個人の方からの寄附も380万円ほどいただいています。合わせますと現時点で900万円超のご寄付をいただいているところでございまして、屋内展示スペースの改修に1000万ちょっと必要になってまいりますけれども、もう少しで屋内展示スペースの拡張には届くといった状況でございます。後日、こうした進捗につきましては、クラウドファンディングサイトやSNSの中でも報告させていただきたいと考えております。

寄附の支援獲得に向けた取組ということで、寄附額に応じて、動物の写真付きのサンクスメールですとかオンラインによるリアルタイムのバックヤードツアー等のご提供を

させていただいております。また、公式SNSによる情報発信というのも、頻回に行っておりまして、その他園内での寄附の呼びかけといったものも週末に実施しております。今度ですね月末から月初めに、マルヤマクラスでも実施させていただこうと思いますのでぜひお立ち寄りいただければと思います。こうした取組によりまして、目標達成に向けて頑張っていきたいと考えております。

今後のスケジュールですけれども、先ほど申し上げましたとおり募集期間8月20日まで延長させていただきますので、こちらの資料が7月21日になっておりますが8月20日までということになります。募集期間の延長に伴いまして改修工事の着工並びに竣工については少しずれ込む可能性もあるかなと思いますが、工事自体は雪が積もる前に終わらせた方が良いので、何とか目標達成してスケジュールとおりに行えるように調整をしまいたいと考えております。クラウドファンディングの実施については以上でございます。

【吉中議長】

どうもありがとうございます。ご質問、ご意見お願いいたします。

【細矢委員】

募集期間は8月20日までに延ばされたという話なんですけれども、なかなか集まりが悪いということだと思うんですけれども、これ例えばマスコミを使って宣伝をすとか、何かそういう予定というのはあるんでしょうか。それともう一点確認したいんですけれども、今回動物福祉に関連させて、屋内展示とか外の放飼場に行ったり来たりできるようなそういう施設を設けるということなんですけれども、このデザイン関係で、札幌市立大学と連携してやられているようなんですけれどもそういう関係はあるんでしょうか。

【石田推進係長】

まず1点目、広報というところだと思いますけれども、ここにつきましてはクラウドファンディングを実施する時点でマスコミ各社にプレスリリースを行っておりまして取り上げていただいた新聞社ですとかテレビ局もございます。あとは動物園なので頻繁にマスコミの取材を受けますので、その都度クラウドファンディングいかがですかということを私どもの方からお願いさせていただいて、取り上げていただけたりいただけなかったりいう状況でございます。委員ご指摘のとおりマスコミ露出が非常に大事だと思っておりますので、何とか露出できるようにいろいろ取組を考えていきたいと思ます。

2点目、獣舎のデザインについてですけれども、こちらの方は市立大学と何か連携してデザインをしているというものではございません。一番の目的がやはり動物の出入りを自由にして福祉の向上を図るといったところなので、まずそこに重点を置いて、かつ

特に夏場はご覧いただける頭数が限定されていたという状況がございますので、そこを少しでも解消できるようにということで改修の内容を考えさせていただきました。

【佐々木委員】

前もご案内いただいたので、報道の方にも渡しているのですが、うちが取材行ったかどうかちょっとまだ分からないのですけれど、だいぶ今説明聞いてわかりましたので、温暖化ということでSDGsの観点からとかそういう切り口で報道の方に、この間申し上げたんですけれど、クラウドファンディングやってるのでテレビで取り上げてほしいという依頼がすごくあちこちから来るので、なかなか意味合いを持たせないと、やれないというのが北大とかでもいろんな先生達から依頼がきたりとか非常にあるのですが、円山動物園としては初だということと、温暖化だからこういうことになってるということと、他の動物の中ではレッサーパンダがそういう涼しいところになきゃならないから起きているっていう出来事だということなど、特殊な部分をもう一度ちょっと再度取材とかで、レッサーパンダが涼しいところにいるような映像が撮れるとか何かそういうご協力いただくことができるというふうにもう一度伝えていきたいと思います。ラジオ等だとはやはり映像なくてもやりやすいのがラジオ局なので、うちはラジオ局を持っていますが、映像がないとできないというよりは、始まってから日が過ぎてるといついつからやりますというのが、新しい情報を欲しがるのがマスコミなので、時が過ぎてしまうとやりにくいけどラジオとかいいのかなとちょっと思いましたね。まだちゃんとできてなくてすいません。

【吉中議長】

ありがとうございます、ぜひよろしくお願いします。他にいかがでしょうか。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

続きまして今年度の予算、令和8年度円山動物園予算の概要についてということでご説明をお願いいたします。

【後藤経営係長】

経営管理課経営係長の後藤です。

それでは資料5、令和8年度円山動物園予算概要についてご説明いたします。まず、令和8年度予算につきましては札幌市全体の話になりますけれども厳しい財政状況を踏まえ、各部局においてシーリングによる内部経費の見直しや節減を行いながら予算編成が行われております。そのような中、円山動物園におきましては、動物福祉や施設維持管理など、動物園の運営に必要な経費を確保しながら予算を編成しております。

それではまず（1）歳入から資料に沿ってご説明をいたします。まず歳入総額につき

ましては4億6,397万円でございます。前年度比が約7千万円の減となっております。主な要因につきましては、入園料の減でございます。入園料につきましては3億8,087万円を計上しており、前年度比で約3,600万円の減となっております。入園者数につきましては備考欄記載でございますとおり、令和7年度当初について90万人を計上しておりましたけれども、令和8年度は5万人減の85万人を見込んでおります。続いて売店使用料でございますけれども、こちらは741万円計上しております。マイナスが100万円ほど出ておりますけれども園内の店舗一部閉鎖ございましたのでその分の減少でございます。続きまして、寄附金に関しましては1,430万円を計上しております。動物園応援基金分の繰入金ですね、こちらが1,250万計上しております。その他歳入につきましては、4,876万円でございますけれども、主な内容といたしましては駐車場の利用料のかからない繰入でございます。こちらがですね入園者が減少しているに伴う減もございまして、前年度比で2,260万円の減となっております。

続きまして(2)歳出でございます。歳出総額につきましては10億2,204万2千円でございます。前年度比で370万円の増となっております。ここからは前年度比で100万円以上の増減がある主な事業についてご説明をいたします。まず、動物園経営費でございます。こちらにつきましては動物用飼料、医薬品でしたり、あと園内維持管理、清掃業務など動物や日常的に運営するための基礎的費用でございます。金額が7億673万円を計上しております。こちら前年度比では約300万円の減となっておりますけれども、主な要因といたしましては備品購入費ですねこちらを見直ししております。続いて2つ下がります。円山動物園おもてなし費でございます。こちらの内容といたしましてはオンラインチケットの運用保守でしたり、あとはデジタルマップの運用保守によるものでございます。こちら令和8年度予算で630万円を計上しております。前年度比では130万円の増となっております。増加の要因といたしましては備考欄記載でございますとおり、オンラインチケット運用費用の増によるものでございます。

続いてホッキョクグマ保全推進費でございます。こちら先ほどもご説明差し上げたとおりAZA関連の加入費でございます。予算で990万円を計上しております。

次に北海道ゾーン整備費でございます。こちらはですね、昨年度をもって北海道ゾーン整備に向けた調査研究が終了しておりますので、予算は令和8年度計上しております。それで180万円の減でございます。

次に円山動物園福祉向上推進費でございます。こちらがレッサーパンダの獣舎、アムールトラの獣舎の改修でございます。動物福祉向上に係る経費として2,400万円を計上しております。前年度比では約500万円の増となっております。主な要因としては、やはりこの獣舎改修費の増でございます。

続いて項目一つ飛ばしまして動物園応援基金造成費でございます。こちらにつきましては動物園応援基金へ積み立てるための経費でございます。令和8年度予算で1億3,500万円を計上しております。前年度比では約900万円の減でございます。主な要因といたしましてふるさと納税の収入の減を見込んでいるところでございます。

次に札幌市認定等物園推進費でございます。こちらは認定動物園への助成に係る経費

でございまして、令和8年度予算で50万円を計上しております。前年度比では約150万円の減となっております、主な要因といたしましては研修開催回数の減によるものでございます。

こちら歳出の最後でございすけれども園内施設の維持管理費でございす。こちらにつきましては獣舎等施設の修繕を行うための経費でございまして、1億3,255万円を計上しております。前年度比で約1,250万円の増となっております、主な要因は獣舎等施設の修繕費の増によるものでございす。

続きまして資料裏面をご覧ください。参考と書かせていただきました動物園応援基金でございす。基金積立額につきましては令和8年度当初予算で1億3,500万円を見込んでおりまして、その内訳はふるさと納税分が1億2,300万円、円山動物園の直接寄付分が1,200万円となっております。その下段ですけれども、基金取り崩し額につきましては1,250万円見込んでおりまして、このうち1,200万円を施設改修で、50万円を認定動物園支援に活用する予定でございす。その結果基金残高につきましては、令和8年度末で約5億円を見込んでおります。

今後につきましては来園者動向の把握にも努めながら、歳入部分ですね、入園料収入、あとは寄附金など歳入確保に取り組むとともに、限られた財源の中で効率的かつ効果的な事業執行を進めていきたいと考えております。また、動物園応援基金も活用しながら、動物福祉の向上や施設の適切な維持管理など、動物園として必要な取組を着実に進め、持続可能な動物園運営に取り組んでいきたいと考えております。

説明は以上です。

【吉中議長】

どうもありがとうございます。予算についてご説明いただきました。先ほどご審議いただいた重点事業をしっかりと行っていくための予算ということと思います。ご質問ご意見をお願いいたします。

【細矢委員】

歳出のところで、アジアゾウ飼育技術向上繁殖推進費ということで予算が30万減っておりますけれども、アジアゾウ飼育における海外専門家招聘研修プログラムで30万減らして、人を呼ぶのを減らしたとかそういうことなんでしょうか。

【石橋飼育展示・診療担当課長】

まず予算についてですけれども、全面的に今年度予算に関しては札幌市全体でかなり厳しいシーリングというものがかかっておりまして、こういった政策事業費に関しては10%のシーリングがかかっているというところでございすので、そういう意味でいう

とともそのベースとしてそのぐらゐの金額が削られてしまうというやうなところになります。あとはその中で各部局において事業を遂行できる形でやりなさいよというのが基本的な考え方になろうかなというふうに思ひます。実際、具体的にどういふ形にするかということになりますと、期間の短縮をするのか、それとも別の形で削るのかということになろうかと思ひますけれども、それをその園の中で工夫をして執行していくという格好になるかなと思ひております。

【松原委員】

冒頭の資料2で、重点取組の数値目標について説明いただきました。その中でのコメントで単年度の予算をどういふふうと比較して見ていけばいいのかなと思ひて質問したいと思ひます。下から2段目の施設整備、この説明の中では施設の整備ですから、保全計画あるいはその改修が中心ということで、重点目標ですからこれから洗い出しをしていくと思ひますが、単年度の計画というよりも、ここの部分では多分長期修繕計画の作成というか、新たな作成というのを意図してるから、3年計画だとか5年計画だとか、これが2000何年目標にしてるから、そういう配分で単年度予算化していくと思ひますが、新設というものであれば、結構予算が、あらかじめポンとつくというか。だけど、修繕費と同じく一部改修だとかであれば、パッチ当てしてやうな予算だと思ひますが、例えば記憶にあるのは、やっぱりオランウータン館ですよ。これは本当に新しく作って、多分長期計画に載っていたと思ひますが、そういった計画も含めて、保全改修メニューの洗い出しというのが、長期修繕計画であるとすれば、新設の部分って長期計画にノミネートするといふかこれから洗い出しだから言えるかはわからないけれどそういうものを作りたいだとか、これから新しい獣舎を作っていくだとかそういう計画はお持ちなんですか。言える範疇でよろしいです。

【白水園長】

新しい獣舎ということ言えば、北海道ゾーンがまさに新しい獣舎という形になります。今ある猛禽舎などが古くなったといふところもあり、それを新しくするといふのが大きいかなといふところはあります。保全計画につきましては、委員のおっしゃるとおり、なかなかつきづらゐお金なんですよ。ですが円山動物園たくさん獣舎がありまして、今までこの長期の保全計画というのを実は持っていませんでした。例えば、学校であつたり、市営住宅であつたりとかいふものは、やっぱり長期の保全計画があります。壊れてから直すのではなくて、予防的にどんどん改修していくというやうな形をとるんですけど、動物園にはそれがなかったの、今そこを洗い直して、壊れてからでは動物にも影響があるし、かつ突然大きなお金だと市としても大変なので、それをなるべく平準化していこうといふのが今回の計画になります。

今年の修繕費の増の部分といふのは、もう既に壊れかけていてとか、壊れてるところをちょっと早めにパッチを当てなきゃいけないところに大きくお金がついたので、今年に関してはもうここはすぐに直さなきゃいけないねといふことで大きなお金をつけて

いただいたというような形になります。以上で説明になってますでしょうか。

【松原委員】

ありがとうございます。獣舎がとても多いということと、どこも老朽化してきているように言うことから改修は新設ではないと思うんだけど、長期計画が必要だと、予算から含めて。そういうことで繰り返しです。よろしくお願いします。

【吉中議長】

どうもありがとうございます。その他いかがでしょうか。

【河合委員】

確認ですけど、この予算案の中にはクラウドファンディング分は含まれているのでしょうか。

【石田推進係長】

はい、クラウドファンディングは、まず歳入予算につきましては今回ふるさと納税型ということで、クラウドファンディングの寄附分はふるさと納税になるので、別部署の歳入予算として計上されることになります。一方で歳出予算につきましては、この動物福祉向上推進費の中のレッサーパンダ獣舎ですね。ここに1,200万円を計上しております。クラウドファンディング目標額1,500万円ですが、ポータルサイトへの手数料等で20%が差し引かれるため、実際必要な獣舎改修費1,200万円なんですけれども、1,500万円を目標にしないと、1,200万円が生まれてこないということで目標額と実際の改修費差異があるという状況でございます。

【吉中議長】

どうもありがとうございます。ほか、よろしいですか。

では続いて最後の議題になります。転入・転出・繁殖・死亡動物についてに移りたいと思います。ご説明よろしくお願いします。

【富士本保全・教育推進係長】

保全・教育担当の富士本です。資料6に沿って説明させていただきます。

まず、転入動物の状況について一番上の表をご覧ください。転入動物はまず、シセンレッサーパンダ、こちらズーラシアから貸与いただいているもの、モルモット、購入したもの、エゾアカネズミこちらは園内で捕獲したもの、マレーグマは台北市立動物園より寄贈いただいているもの、市内の防除で捕獲したアズマヒキガエル、こちらが転入動物になっております。冒頭申し上げ忘れましたが、こちら前回の会議があった後、昨年度の12月17日から今年度の4月30日資料作成時点となっております。

続いて転入動物ですが、こちらは該当がございませんでした。

3番目の繁殖動物の状況ですが、ムスジカナヘビが2頭増えております。

最後に死亡動物の状況ですけれども、モルモットですとかアトラスオオカブト、ニホンザル、フンボルトペンギン、ヒメトガリネズミ、モルモット一部重複しております。トガリネズミも重複あります。エゾアカネズミ、ダチョウ、アメリカビーバー、ヒガシニホントカゲ、ガビアルモドキ、ムスジカナヘビなどで死亡動物がありました。以上になります。

【吉中議長】

どうもありがとうございます。ご質問ご意見ありましたらお願いします。

【細矢委員】

転入のところで、3月9日にエゾアカネズミがペンギン展示場で捕獲されましたということだったんですけども、そもそもエゾアカネズミはその辺にいっぱいいるものなんでしょうか。それとペンギン展示場で捕獲されましたけども、展示場においてペンギンに対して悪さをするというんですかね、なんかそういうものっていうのはないんでしょうか。

【小菅参与】

エゾアカネズミというのは北海道のこの辺で生息する野ネズミの中で、普通のネズミタイプの長い尾で赤くて結構綺麗なネズミなんですけど、ちょっと山奥に行ったら結構います。ただ、ペンギン展示場で捕獲っていうのは、天井のどこで捕まったのか知らないけれど、たまたま迷い込んだんだと思うんですよね。捕獲した人に聞いてみなければわからないけども、そんなに珍しいもんじゃない。でもネズミを見る機会というのは本当に普通でもなかなかないので、動物園は14年ぐらい前からですかね、少なくともヤチネズミとアカネズミについては、どさんこの森ですずっとケージ飼いをしていて、これを見て子供たちは、こんなのがこの辺にいるんだというのを再確認するためにも、展示としては必要なものではないかなと思ってます。細矢さん、実際にエゾアカネズミについて見たことないですよ。山に行ったら結構見えます。くるみなんかが下に落ちてい

のを見てみると、左右両方に穴が開いていてエゾアカネズミの食痕なんです、食べた後なんです。それでエゾリスなんかは、この節をギュッと綺麗に回って食べるので、くるみの食べ跡を見てもこれはエゾアカネズミのだと分かるので結構いい標本にはなるので、子どもたちにはこんな生き物がいるということで実際見たらいいじゃないかなと思っていますよね。今実際にエゾアカネズミを展示していますからわかりやすい。ただ、普通はペンギンの展示場にはいない、たまたま偶然入り込んだ。結構飛び跳ねるのが上手で鋭くて、逃げ出したりもするので、その逆に言えば、入り込んだりすること、たまたまそういう個体が見つかったんだと思います。

【細矢委員】

雌雄不明というのは分かりづらいのですか。

【小菅参与】

きちんと見ればわかります。ただ多分、捕まえただけで、その確認をしてないということだと思うんですよね。

【白水園長】

エゾアカネズミはつい先日も真っ昼間に、外でトラを見てるお客さんの足元に出てきてお客さんがきゃーと言った瞬間に、自分は飛び抜いたつもりだったんだと思うんですけども蹴っ飛ばしてしまっただけで即死してしまい、私はそれをその場で拾って帰るということがありましたので結構園内にいます。

【吉中議長】

ありがとうございます。その他いかがでしょうか、大丈夫ですか。それではこの議事、転入・転出、繁殖、死亡動物について終わりたいと思います。以上で予定されていた議事は全部終わりました。何か言い忘れたこと、全体を通して何かありましたらお願いします。

【細矢委員】

昨年もお伺いしたんですけども、来月7月25日に動物福祉の日を制定されていてしゃいますよね。それに伴って園として何かやられることはあるのでしょうか。

【富士本係長】

はい、例年もやっている動物福祉のシンポジウムを開催させていただくことで予定しています。今回たまたまイベントが重なったんですけれども毎日新聞さんとSDGZooというイベントを実施しまして、園内各所に企業がブースを設けたりですとか、そこを回ってスタンプラリーをするようなイベントになってるんですけれども、その中の一部としてですね、シンポジウムを開催させていただく次第でございます。

【吉中議長】

ありがとうございます、よろしいでしょうか。

それでは以上で本日の市民動物園会議第52回を終了したいと思います。皆様どうもありがとうございました。事務局もありがとうございました。

【佐竹保全・教育推進課長】

以上をもちまして、令和8年度第1回市民動物園会議を閉会させていただきます。長時間に渡りご審議いただきましてありがとうございました。吉中議長におかれましては、会議の進行の方ありがとうございました。皆様方にはですね今回3年の任期で委員をお願いしておりましたが、それも任期が本年10月31日で任期満了となります。次回の会議開催は11月以降を予定しているので、今回はこのメンバーでの皆様にお揃いいただき、最後の会議になります。3年間当園の運営にお力添えをいただきましたことをこの場をお借りしまして御礼申し上げます。委員から離れられた場合でも引き続き当園を応援していただけると幸いです。本日は本当にありがとうございました。